

令和3年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.126～127)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)		
施策名	4-4 除排雪		
所管部	建設部	関係部	なし
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.42)</p> <p>北国ならではの自然環境の中、冬期間であっても、外出しやすいと感じられる環境や安全・安心で快適な市民生活の確保を目指します。</p> <p>このため、効率的な雪対策の充実を図り、高齢者や子どもなどにも配慮した除排雪に努めます。</p> <p>また、将来を見据え、持続可能な除排雪体制を維持するため、雪堆積場等の確保やロードヒーティング設備などの維持更新に努めるとともに、市民との協働を進めます。</p>		
市民アンケート 指標	冬期間、安全に移動できる道路が確保されていると感じている市民の割合	基準値	目標値
		29.3%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.126～127)

小施策 及び 指標	(1) 効率的な雪対策の充実		基準値	目標値
	指標	除排雪等に対する「市民の声」件数	2,697件	2,100件
	(2) 市民との協働による雪対策の検討		基準値	目標値
	指標	砂まきボランティアの登録数	153件	180件
	(3) 雪堆積場等の確保		基準値	目標値
	指標	雪押場数	439か所	530か所

令和3年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)					
施策名	4-4 除排雪					
所管部	建設部	関係部	なし			
市民アンケート 指標	冬期間、安全に移動できる道路が確保されていると 感じている市民の割合	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値	
		29.3%	27.8%		基準値より増	
市民アンケート 指標の推移	△	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない ー:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	除排雪等に対する「市民の声」件数	2,697件	1,334件	◎	2,100件
	(2)	砂まきボランティアの登録数	153件	172.5件	◎	180件
	(3)	雪押場数	439か所	521か所	◎	530か所
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	A-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 各小施策の指標については推移が順調である。 「市民の声」は基準値より少ない件数であるものの、市民アンケート指標では基準値より下回っており、安全に移動できる道路が確保されていないと感じている市民の方が多い現状である。要因として、人口減少や高齢化の進行など社会環境の変化により、市民ニーズも多種多様化してきていることから、これまで以上の除排雪サービスが求められているものと推測される。 将来にわたり持続可能な除排雪体制を維持するため、雪堆積場等の確保や除雪ステーションにおける管理運営の効率化の検討及び交通事業者、町内会等との連携を図るとともに、市民との協働による雪対策を推進してまいりたい。 					

■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	A-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。 除排雪等に対する「市民の声」の件数はその年の降雪量にも左右されるが、除排雪は市民生活に密着した課題であり、市民ニーズの多様化・高度化もうかがえることから、各事業における工夫などを進めることで、市民満足度の向上に努めるとともに、国や道、地域との連携を図りながら引き続き、雪対策を進めること。 				

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1) 効率的な雪対策の充実

(第7次総合計画 基本計画 P.126)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	除排雪等に対する「市民の声」件数		平成21年～30年平均		2,697件	2,100件 (R1～R10平均)		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	単年度	1,063件	1,605件					
	平均	1,063件	1,334件					
指標推移	◎	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)					
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ★地域総合除雪による安全な交通の確保(建設部建設事業室) ★効率的で持続可能な雪対策の検討(建設部建設事業室) ○除雪機械の計画的な維持・更新(建設部建設事業室) ○国道・道道の道路管理者との除雪体制連絡会議の充実(建設部建設事業室) ○交通事業者や教育機関との連携の強化(建設部建設事業室) ○ロードヒーティング設備の計画的な維持・更新(建設部建設事業室) 							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 除雪費(999)		② 1,560,067 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 歩道や車道の除排雪、凍結路面などの管理を一括して委託することにより、効率的かつ安全な交通の確保を行うもの。						
		⑤ 各地域に応じた除排雪作業を総合的な判断のもとで効率的に行うために、地域総合除雪の体制を維持している。 雪山処理 令和元年度 96か所、令和2年度 100箇所						
	2	① 除雪ステーションにおける管理運営の効率化の検討		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 人口減少により除雪の担い手不足等が想定される中、将来にわたり、安定した除雪体制を維持するため、ICTの導入や除雪業務における技術の継承等を検討するもの。						
		⑤ ICTの導入に向けて情報収集を行っている。						
	3	① 建設機械整備費(2295)		② 45,210 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 当市で所有する除雪機械は、耐用年数を超過している除雪機械が約7割を占めている。安定的な除雪体制を継続するためには、老朽化している除雪機械の更新や予防保全的な部品交換等により延命化を図る。						
		⑤ 【更新状況】 平成30年度 除雪クレーダ1台、令和元年度 小型ロー刈除雪車 2台、令和2年度 大型ロー刈除雪車 1台						
4	① 国道、道道の道路管理者との除雪体制連絡会議の充実		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課			
	④ 道路管理者間で除雪体制連絡会議を開催して、除雪体制等の情報を共有し、連携、協力を図る。							
	⑤ 【開催実績】 平成30年度 1回、令和元年度 2回、令和2年度 2回(うち書面開催1回)							
5	① 交通事業者等との連携強化の検討		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課			
	④ 交通事業者(バス、タクシー事業者等)や教育関係者の目線による、道路情報の提供を受けることにより、幹線道路、学校周辺及び通学路等の安全な通行の確保を図る。							
	⑤ 令和2年度、交通事業者との除雪体制連絡会議 2回。教育委員会との打合せ 2回。 会議以外でも道路状況に合わせて都度協議を行っている。							
6	① 効率的で経済的なロードヒーティング設備の更新や経費の削減を検討		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室			
	④ ロードヒーティング設備の全面的な更新から部分的な更新へシフトすることにより、効率的で経済的な設備の更新が可能となり、かつ設備の延命化が図られる。							
	⑤ 令和3年度にロードヒーティング長寿命化計画を策定予定							
指標推移の要因等	道路パトロールにより、的確に道路状況を把握し、気象情報等も参考にしながら、予防保全的な除排雪作業を実施していることや、主要交差点の見通しの確保や通学路の安全確保に伴う除排雪作業を適切なタイミングで行った結果、「市民の声」が基準値より少なく、指標が順調に推移しているものと考えられる。							
指標推移への対応	1	1: 各事業をこのまま継続して推進する 2: 予算事業等を改善しながら推進する 3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	< 対応の内容を箇条書きで記入 > ・指標推移は順調であるため、今後も同様の対応を継続していく。							

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)市民との協働による雪対策の検討

(第7次総合計画 基本計画 P.127)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	砂まきボランティアの登録数		平成30年		153件	180件 (R1~R10平均)		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	単年度	192件	153件					
	平均	192.0件	172.5件					
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★雪対策に関する市民周知や市民からの意見聴取(建設部建設事業室)</p> <p>○砂まきボランティア制度の充実(建設部建設事業室)</p> <p>○貸出ダンプ制度などの市民協働のあり方の検討(建設部建設事業室)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 地域の実情に応じた雪対策の推進		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 地域の実情は様々であることから、町内会等団体等とのコミュニケーションを図り、その地域に合った雪対策を共に考え、地域の実情に応じた雪対策の推進を図る。						
		⑤ 【除雪懇談会開催実績】平成30年度 2回、令和元年度 2回、令和2年度 2回(うち書面開催1回) 除排雪作業のタイミングや空き地等を利用した作業など、地域に応じた除排雪作業の工夫について検討を進める。						
	2	① 砂まきボランティアの推進		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 市で機械による砂散布ができない急坂・狭隘路線や歩道の滑りやすい箇所への砂散布については、制度に登録された方にご協力をいただき、冬期間の安全な通行を確保するもの。						
		⑤ 【登録者数】令和元年 192名、令和2年 153名 除雪懇談会や広報おたる等で周知を図っている。						
	3	① 地域で支え合う雪対策の推進		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
④ 生活道路の排雪支援は昭和54年から貸出ダンプ制度を運用していたが、制度の適正な利用や予算の有効活用を図るため、制度の在り方を見直すもの。また、新たな支援方法について検討する。								
⑤ 新たな支援方法として、小型除雪機の購入等支援の検討を進める。								
4	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
5	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	令和2年度単年度の登録者数は基準値と同値であったが、過去10年平均より約30件の減少がみられる。要因の一つとして、これまで登録していただいた方の高齢化に伴い、登録される方が減少してきているものと考えられる。 指標である平均値は目標値に対して順調に推移している。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> 砂まきボランティア制度の周知は、広報おたるやホームページ等で行っていたが、更に制度の理解と周知を図るとともに、個別の登録に加えて、町内会等団体単位での登録についても、協力をお願いしていく。							

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(3)雪堆積場等の確保

(第7次総合計画 基本計画 P.127)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	雪押場数		平成30年		439か所	530か所		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	529か所	521か所				
指標推移			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	★恒久的な雪堆積場等の確保に向けた情報収集、調査(建設部建設事業室) ○雪堆積場等の拡充に向けた検討(建設部建設事業室)							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 恒久的な雪堆積場等の確保に向けた検討		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 排雪の受け入れ先は、中央ふ頭基部の雪処理場に大きく依存している状況があり、大雪時のリスク分散や運搬経費の縮減のため、恒久的に使用が可能な雪堆積場等の確保に向けた検討を行う。						
		⑤ 候補地となる土地等の情報収集や調査を実施。						
	2	① 雪押場の確保		② 予算なし 千円		③ 建設部建設事業室維持課		
		④ 除雪した雪を「雪押場」に入れることにより、除雪作業で道路脇に寄せられる雪(置き雪)の量を軽減することが可能となり、かつ、排雪量の減量による経費の縮減が見込まれる。						
		⑤ 雪押場数 平成30年度 439か所、令和元年度 529か所、令和2年度 521か所 令和2年度は新規雪押場を3か所確保したが、既存の雪押場11か所は土地売買により使用不可となった。						
	3	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	4	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	5	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	6	①		② 千円		③		
		④						
⑤								
指標推移の要因等	雪押場数は目標値とほぼ同数で推移している。 要因としては、土地所有者の御理解と御協力により箇所数が確保できているものと考えられる。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> ・さらなる雪押場の確保に向けては、空き地の情報提供や土地所有者情報等を得られるよう、地域の土地利用に詳しい方や町内会等と連携と協力体制の構築を図る。							